

# ラオス：蔵相交替人事の政治的背景

ラオスのカンブーイ副首相兼蔵相といえば、海外のマスコミでは、「新思考」路線を推進する「経済テクノクラート」の代表として紹介されてきた。そのカンブーイ氏が8月上旬解任され、蔵相ポストはブンニャン副首相が兼任することになった。この蔵相交替人事の背景に、ラオス人民革命党内での「保守派」対「改革派」の闘争を指摘する報道もある。しかし、開放政策では立役者だったカンブーイ氏も、一昨年来のアジア経済危機の自国への波及阻止には無力だったのも事実で、そのため詰め腹を切らされたというのが実態のようだ。

## 「引退を許可された」 カンブーイ副首相兼蔵相

カンブーイ・ケーオブアラパー副首相兼蔵相(当時)の事実上の解任は、カムタイ・シーバンドーン大統領([人物データ・ファイル]参照、以下《p》)が8月6日に署名した大統領令で布告された。それによると、カムタイ大統領はカンブーイ氏の「引退を許可することを決定」し、ブンニャン・ヴォーラチット副首相《p》を後任の蔵相(兼任)に任命。同時に、チュアン・ソンブンカン中央銀行総裁(閣僚待遇)を更迭し、その後任に前ボーケーオ州知事のスカン・マハラート氏を充てる人事を発令した。

同大統領令を掲載した人民革命党(LPRP)機関紙「バサソン(人民)」は、2人の経済閣僚の人事の理由を「職務上の不適性と年齢」に拠るものと報道。これに呼応するように、ヒエム・ボマチャン駐タイ・ラオス大使は、カンブーイ氏が老齢と健康状態から最近何度も辞任の意思を表明していたと海外のマスコミに「証言」している。

これで68歳のカンブーイ氏は全ての公職を退き、年金生活に入った。また、チュアン前中銀総裁(54)の方は「新しいポスト」に異動になったが、そのポストは明らかにされていない。

## 社会主義体制と開放政策の矛盾

カンブーイ氏といえば、これまで海外のマスコミでは、「新思考(チンタナカーン・マイ)」路線に基づき、経済開放を推進する「テクノクラート」の代表として紹介されてきた。確かに、90年代初めからの開放気運の高まりの中で、副首相兼経済協力委員会委員長として、ラオスへの外国投資を積極的に誘致したのは同氏だった。

しかし、それが同氏と海外の投資家たちとの「癒着構造」を作り上げた側面もある。ラオスへの最大の投資国である隣



カンブーイ前副首相兼蔵相



ブンニャン現副首相兼蔵相

国タイのビジネスマンとは特に親密で、イデオロギーや政治・軍事分野でベトナムとの関係を重視する人民革命党の「同志」たちは、「親タイ派」のカンブーイ氏が経済運営で影響力を強めてきたことを警戒しただろう。

96年の第6回党大会で、カンブーイ氏は政治局員から外され、その後名目上の副首相ポストは保ったものの国家計画委員会議長、経済協力委員会委員長など財政部門の要職を失っている。実は、この党大会で同氏に代わる形で政治局に復帰したのがシーサワート・ケーオブパン現首相(当時：農林相、《p》)。カムタイ首相(現大統領)の側近であるシーサワート氏はカン

### ラオス人民革命党(LPRP)政治局員 (序列順)

- |       |  |
|-------|--|
| 〈第1位〉 | カムタイ・シーバンドーン<br>Khamtay Siphandone<br>党中央委員長兼大統領 |
| 〈第2位〉 | サマーン・ウィニャケート<br>Samane Vignaket<br>国会議長          |
| 〈第3位〉 | チュンマリー・サイニャソーン<br>Choummaly Sayasone<br>副首相兼国防相  |
| 〈第4位〉 | ウドム・カッティニャ<br>Oudom Khatthigna<br>国家建設戦線議長兼副大統領  |
| 〈第5位〉 | トンシン・タンマヴォン<br>Thongsin Thammavong<br>党中央組織委員長   |
| 〈第6位〉 | オサカン・タンマテーヴァ<br>Osakan Thammatheva<br>党広報・訓練委員長  |
| 〈第7位〉 | ブンニャン・ヴォーラチット<br>Bounnang Vorachit<br>副首相兼蔵相     |
| 〈第8位〉 | シーサワート・ケーオブパン<br>Sisavath Keobounphan<br>首相      |
| 〈第9位〉 | アサン・ラオリ<br>Asang Laoly                           |



プーイ氏の縁故主義や汚職疑惑追求の急先鋒になったと噂されている。

そのカンブーイ氏が、昨年2月の第4期国会で首相に就任した「政敵」シーサワート氏の下で、意外にも副首相兼蔵相に任命され、再び外国投資受け入れの実質的な総責任者となったのだ。ビエンチャンの外交筋では、その背景として、一昨年来のアジア経済危機のラオスへの波及を阻止するために、カムタイ大統領が外国投資家に受けのよいカンブーイ氏に投資の繋ぎ留めの役割を期待したと見る。

しかし、実際にはアジア経済危機はおおよそ1年遅れでラオス経済を直撃。通貨キップは97年に1ドル=1,125キップだったが、98年末には1ドル=4,200キップ、そして現在の1ドル=9,800キップと急激に下落した。外貨準備高は98年末の時点で1億2,200万ドルまで減少。これは同国の輸入の2カ月分をカバーするにすぎず、キップ貨の下落へと連動した。インフレ率も98年中だけで100%に達した。

財政赤字は98年国内総生産(GDP)の12.8%という歴大な数値になっている。また、従来からの貿易赤字は増大する一方で、今年上半期の輸出総額が1,700万ドルにすぎないのに対し、輸入総額は1億7,800万ドル(相手国の内訳ではタイが84%を占め、断トツの1位)に上った。

このように経済危機が深刻化する中で、カンブーイ氏は蔵相としては無為無策との厳しい評価が最近は大蔵省の高級官僚の間からも出ていた。頼みの外国投資が(タイやマレーシアなど従来ラオスへの投資に熱心だった国々が、自国の経済再建に専念していることもあり)激減。アジア開発銀行(ADB)による最近の査定では、ラオスへの外国投資額は97年に1億4,200万ドルだったが、98年はわずか4,500万ドルにすぎない。

カンブーイ氏は外国投資の誘致とそれに関連する国営企業の民営化などでは手腕を発揮したものの、元来はいわれているような財政・金融の専門家ではない。筆者(勝田)が聞いたビエンチャンのある先進国の外交官は、青年期から革命運動に参加し、高等教育機関で行財政学などを体系的に修得した経歴を持たないラオスの古参政治家を「テクノクラート」と見なすこと自体に疑問を呈している。

もっとも、ラオスが直面する経済状況は、一党独裁の社会主義体制を維持しながら、出来れば経済面のみで開放・改革路線を推進しようとするベトナムなどと共通の政治構造上の本質的な矛盾に起因するところも多い。その点で、最近のカンブーイ氏は無力感を感じていたのかもしれない。同氏は今年に入って、経済政策の決定にも主要な役割を果たしておらず、シーサワート首相が政治面だけでなく、経済運営でも前面に出ていた。従って、蔵相交替は外交筋にはかなり早くから予想されていたことだった。

人事発令がこの時期になったのは、キップ貨が6月以来下げ止まり、経済が若干回復基調にあるからだろう。経済運営を「刷新」していくとの印象を内外に与えるために、カンブーイ蔵相、チュアン中銀総裁が恰好の「スケープゴート」になったと言えなくもない。また、今回に続いて近い内に他の閣僚の入れ替えも十分予想される。

## 「保守派」VS「改革派」?

さて、今回財政相を兼任することになったブンニャン氏は96年に政治局入り。昨年2月に内務担当の副首相に就任しているが、それ以前は90年から97年まで敏腕のビエンチャン市長(兼同市党書記)として知られた。特に、首都圏住民の平均収入を全国平均をはるかに上回る水準に引き上げたことは高く評価されている。とはいっても、国家経済の運営は市政とは根本的に異なっており、外交筋には新蔵相の力量を疑問視する声が多い。

また、スカン新中銀総裁もポーケーオ州の開発に成果を挙げたとされているが、どちらかといえばビジネス中心の発想であり、金融政策ではほぼ「素人」である。ラオス政府に近い筋は、今後はシーサワート首相が経済分野でもこれまで以上の役割を担い、かなり実務的な決定まで行うのではないかと予想している。同首相が経済危機の克服に成功するかどうかは、「ポスト・カムタイ」を睨んだ人民革命党内の権力構図にも重要な影響を及ぼすだろう。

それに関連して、欧米諸国やタイの一部マスコミでは、今回の蔵相交替人事を巡り、党内で「保守派」と「改革派」の路線闘争があったと推測している。しかし、真相はカンブーイ氏は「静かに去った」(前述の西側外交官)ということのようだ。

昨年2月に成立したラオスの現体制は、社会主義体制下で実権を握る人民革命党議長(政治局序列第1位)と、国家元首で軍最高司令官の大統領職を兼任するカムタイ氏に実権が集中した体制だ。シーサワート首相は、60年代初め、旧パテト・ラオ軍のカムタイ最高司令官の下で総参謀長を務めた経歴を持つ大統領の軍人仲間であり腹心。現体制での国政は大統領が直接指導し、同首相が実務の補佐をする「カムタイーシーサワート」ラインで運営されている。その分、政治局序列第2位のサマーン・ウィニャケート国会議長《p》の党内での影響力が弱まっている感は否めない([政治局員リスト]参照)。

カンブーイ前副首相は外国投資の責任者であったことから「改革派」とされたが、ラオスの場合は少なくともベトナムのような政治局レベルでの「保守派」対「改革派」と呼べるような対立は存在していないといつてよいだろう。



## 〔人物データ・ファイル〕

### ラオス国家・政府の最高首脳

#### ■大統領 President

カムタイ・シーバンドーン  
Kamtay Siphandone, (Gen)



98年2月の第4期国会で社会主義体制下で実権を握るラオス人民革命党議長を兼務したまま大統領(国家元首)に就任、党と国家を完全に掌握し、名実ともにラオスの最高実力者になった。二つの重要ポストを独占したのは、1992年に病死したカイソーン・ポムヴィハーン元大統領以来。

1947年から革命運動に参加し、1972年に政治局入り。長らくラオス人民軍総司令官や国防相を務めるなど軍事畑を歩いてきたが、91年より首相、92年に人民革命党議長(政治局序列第1位)にも就任し、権力基盤を不動のものとした。

かつて国防相を務めた経歴から、軍部にも強い影響力を持つ。外交筋は「軍人らしく、威厳がある」と指摘する。75年に成立した現社会主義体制の初代指導者だったカイソーン氏の直系といわれ、対外的には剛直な社会主

義者のイメージが強い。国民と広く接触する機会も少なく、近寄りたがいない存在と映るようだ。しかし、同氏を知る人たちの間では、飾らない実直な人柄には定評がある。

97年以降のアジア経済危機の直撃を受けた国家経済を再建し、86年に打ち出した「チンタナカーン・マイ(新思考)」に基づく経済開放、刷新路線の持続をどう舵取りするかが課題である。

#### ▼データ

##### 【現職】 大統領

ラオス人民革命党中央委員会議長  
人民軍最高司令官

【年齢】 75歳(1924年2月8日生まれ)

【生地】 チャンパサック州

##### 【経歴】

- 1947: 革命運動に参加
- 1952: 自由ラオス戦線(ラオ・イサラ)中央委員  
中部地域委員長(-54)
- 1954: インドシナ共産党党员
- 1955: ラオス愛国戦線(パテト・ラオ)軍参謀  
総長(-57)
- 1956: ラオス人民革命党(LPRP)党员
- 1957: 人民革命党中央委員

1960: 人民革命党中央委員会軍事主任  
パテト・ラオ軍総司令官

1972: 党政治局員(第2回党大会:以後83、86、91、96の各党大会で再選)

1975: 副首相兼国防相、ラオス人民軍総司令官

1991: 首相(第II期国会第6回議会で承認)

1992: 党中央執行委員会議長

1993: 首相再選(第III期国民議会準備会合で承認)

1996: [3月] 党議長に再選

1998: [2月24日] 大統領に就任(第IV期国会)

##### 【趣味】 園芸

【家族】 夫人及び2男3女

##### 【横顔】

・1995年5月末から6月上旬にかけ、初めて日本を公式訪問し、村山首相(当時)と会談、経団連で講演したほか、日ラオス友好議員連盟の昼食会(会長:原田憲衆議院議員)に出席した。  
・対日観は、故カイソーン元大統領の影響力が強く、「開国は日本(の明治維新)に学べ」との思想の持ち主といわれる。ラオスに反植民地、独立運動が芽生えたのは、日本のおかげであるとの認識を有している。経済協力面での日本への期待は大きい。

#### ■国会議長 President of National Assembly

サマーン・ウィニャケート  
Samane Vignaket, (Lt Gen)



ラオス人民革命党(LPRP)政治局の序列では、カムタイ大統領に次いで第2位。98年2月の第4期国会では、当初首相に選出されるのではとの予測もあったが、結局国会議長に再選された。国政では、カムタイ大統領が直接指導し、その側近であるシーサワート首相が補佐する「カムタイ-シーサワート」ラインで固められたため、国会議長の影響力が弱くなった感否めない。

#### ▼データ

##### 【現職】 国会議長

【年齢】 72歳(1927年3月3日生まれ)

【生地】 アタプー州

##### 【経歴】

- 1935: 農業に従事  
自由ラオス戦線(ラオ・イサラ)に参加(-45)
- 1950: チャンパサック州のサイチャカパット部隊政治担当委員
- 1954: ラオス人民解放軍最高司令部政治局
- 1960: シエンクアン州軍司令部党委員会書記(政治担当)(-69)
- 1970: 南部軍管区党委員会書記兼司令官
- 1975: 副国防相兼ラオス人民軍政治総局長(人民軍中將に昇格)(-81)

1982: ラオス人民革命党(LPRP)中央委員会書記兼政治局員(第3回党大会:以後第4、5、6回の各党大会で再選)

人民革命党中央委組織委員会委員兼教育相

1993: 国会議長(第III期国会)  
第IV期国会選挙委員会議長(-97)

1998: [2月24日] 国会議長(第IV期国会)

##### 【横顔】

・ラオス国会は97年12月、LPRPが75年に内戦に勝利し、ラオス人民民主共和国を樹立して以来、4回目の総選挙[第4期国会議員選挙]を行い、一党独裁体制を敷くLPRPが98議席を獲得[無所属議員1人が当選]した。同氏は国会議長を第3期[93年]から務めている。

#### ■首相 Prime Minister

シーサワート・ケーオブンパン  
Sisavath Keobounphan, (Gen)



ラオス人民革命党(LPRP)政治局の序列では第8位で、チュンマリー副首相兼国防相(第3位)やブンニャン副首相兼蔵相(第7位)よりも下位にあるが、本来ならカムタイ大統領に次ぐ序列でも不思議はない経歴を持っている。実際、86年11月の第4回党大会で政治局入りした時は、第5位カムタイ(当時:国防相)、第8位シーサワート(当時:ピエンチャン市党書記)、第11位サマーン(当時:党組織委員長)という序列だった。しかし、91年の第5回党大会で政治局から外された。96年には、3月の第6回大会でカムタイ首相(当時)の引きで、(今回副首相兼蔵相を解任された)カンブーイ氏と入れ替わる形で政治局に復帰するとともに、ヌハク大統領(当時)の実務的補佐を担当

する新設の副大統領に就任。

98年2月の第4期国会で首相に選出されたのは、軍への影響力や、実力者カムタイ氏の盟友ということだけでなく、国際社会の中で切り盛りできる外交能力と政治力を買われたからともいわれる。今回の蔵相交替人事で、カムタイ大統領としては、行政府は盟友のシーサワート首相を3人の副首相(チュンマリー国防相、ブンニャン蔵相、ソムサワート外相)が支える体制で、経済危機を乗り切り、インフラ整備と外資導入を再強化したい意向だ。

#### ▼データ

##### 【現職】 総理大臣

【年齢】 71歳(1928年5月1日生まれ)

【生地】 ファファン州サムヌア地区ホイカラム村

【学歴】 (ベトナム)高級政治思想学校で学ぶ

##### 【経歴】

- 1947: 革命運動に参加  
北西地区武装宣伝・襲撃隊員
- 1948: (ファファン州シエンコー地区)政治班  
秘密工作員
- 1949: ラサヴォン部隊政治主任
- 1952: 同隊長

1950: [5月1日] インドシナ共産党党员

1954: 対仏停戦委員会委員

1955: [3月22日] ラオス人民革命党(LPRP)  
創設時に中央委員として参加

中央軍事委員会委員兼軍参謀長

1956: サムヌア再結集地帯党書記

1960: 人民革命党中央軍事委員会委員に再選  
パテト・ラオ軍最高司令部行政委員会委員

パテト・ラオ軍総参謀長

1972: 人民革命党中央委員に再選

1975: 首相府相

内相

ピエンチャン市行政委員会議長

1980: 大将に任官

1983: 人民革命党中央委員に再選(3期目:  
以後86、91、96年に再選)

1986: 人民革命党政治局員(序列第8位)

1991: 政治局員から外れる

農林相

1996: 政治局員に復帰(序列第8位)

副大統領

1998: [2月24日] 首相(第IV期国会)



**【横顔】**

・同氏率いるパテト・ラオ(ラオス愛国戦線)軍が62年、ラオス北部の中国国境に近いルアンナムタで、右派王国軍を打ち破ったことで、同氏はカムタイ大統領同様、現在のラオス軍に大きな影響力を保持しており、カムタイ氏との親交は深い。

・ベトナムの高級政治思想学校で学び、流暢な

ベトナム語を話す。1948年にフアファン州シエンコー地区で政治班秘密工作員だった時には、故カイソーン元大統領と行動をともにした。

・98年2月にシーサワート首相が誕生した時、それまで名目的な副首相だったカムプーイ氏が新首相の下で実質的に復活した(財政相も兼任し、経済政策の実質的な中心者に返り咲いた)ことに外交筋は驚いた。というのも、同首相は91年の

第5回党大会で、力を得てきたカムプーイ氏と入れ替わる恰好で政治局を外された経緯があるからだ。ところが、96年3月の第6回大会では、カムプーイ氏が政治局から外され、代わりに同氏が復帰した。その時は、カムタイ首相の側近であるシーサワート氏(当時：農林相)が、カムプーイ副首相のタイ投資家との癒着などの疑惑を追求して「政治的怨念」を晴らしたと噂された。

**■副首相兼蔵相 Deputy Prime Minister and Minister of Finance**

ブンヤン・ヴォーラチット  
Bounyang Vorachit



人民革命党政治局での序列は第7位でシーサワート首相よりも上になっている。8月6日の大統領令で、解任されたカンプーイ氏の後任として蔵相ポストを兼任することになっ

た。1996年4月に副首相に就任する前は、中部方面軍勤務から、サワンナケート県党書記を経て、ピエンチャン市党書記兼市長と、人民革命党の党人としてはエリート・コースを歩んできた。特に、ピエンチャン市長時代は市民の平均収入を大きく引き上げたとして高く評価された。ただ、国家経済の運営は市政とは根本的に異なるため、外交筋には新蔵相の力量を疑問視する声が多い。

**▼データ**

【現職】副総理大臣兼大蔵大臣  
【年齢】62歳(1937年8月15日生まれ)

【生地】サワンナケート県

【学歴】ベトナムにて中学校卒業

**【経歴】**

1954：中部方面軍大隊長(←80)

1982：サワンナケート県党書記兼農知事を経てピエンチャン市党書記兼市長

1996：[3月] 党政治局員に選出(第6回党大会)(党内序列第7位)

[4月] 副首相

1999：[8月6日] 副首相兼蔵相

【家族】夫人及び子供5人

**【横顔】**

・訪日歴：なし

**ラオス国家首脳・政府閣僚**

(1998年2月23-26日の第4期国会で選出・承認)

**《国家元首》Lao People's Democratic Republic**

■大統領 President of the State  
カムタイ・シーバンドーン(大将)  
Khamtay Siphandone, Gen  
(ラオス人民革命党中央委員会議長)

■副大統領 Vice-President  
ウドム・カッティニャ  
Oudom Khatthigna  
(ラオス国家建設戦線議長)

**《国会(国民議会)》National Assembly**

■国会議長 President  
サマン・ウィニャケート  
Samane Vignaket

■国会副議長 Vice-President  
カンブー・スーニサイ  
Khambou Sounixay

■国会副議長 Vice-President  
ヴォンパット・サイクエヤチョントウア  
Vongphet Saykeuyachoungtoua

■国会副議長 Vice-President  
オンチャン・タンマヴォン  
Onechanh Thammavong (Mrs.)

**《政府閣僚》Council of Ministers**

■首相 Prime Minister  
シーサワート・ケオブンパン  
Sisavath Keobounphan

■副首相(兼蔵相)Deputy Prime Minister & Minister of Finance  
ブンヤン・ヴォーラチット  
Bounyang Vorachit  
(1999年8月6日蔵相兼任)

■副首相(兼国防相)Deputy Prime Minister & Minister of Defense  
チュンマリー・サイニャソーン(中将)  
Choummaly Sayasone, Lt Gen

■副首相(兼外相)Deputy Prime Minister & Minister of Foreign Affairs  
ソムサワート・レンサワート  
Somsavat Lengsavat

■内相 Minister of Interior  
アサン・ラオリ(大将)  
Asang Laoly, Gen

■教育相 Minister of Education  
ピンマソーン・ルアンカンマー  
Phimmasone Leuangkhamma

■情報・文化相 Minister of Information and Culture  
シールア・ブンカム  
Sileua Bounkham

■国家計画委員会委員長(閣僚) Minister, Chairman of the State Planning Committee  
ブアトーン・ヴォンローカム  
Bouathong Vonglokhram

■労働・社会福祉相 Minister of Labor and Social Welfare  
ソムパン・ペンカムミー  
Somphanh Phengkhammy

■商業・観光相 Minister of Commerce and Tourism  
プーミー・ティップパヴォーン  
Phoumy Thipphavone

■工業・手工業相 Minister of Industry and Handicrafts  
スリヴォン・ダーラーヴォン  
Soulvong Daravong

■通信・運輸・郵便・建設相 Minister of Communications, Transport, Posts and Construction  
パオ・ブンナポ  
Phao Bounnaphol

■保健相 Minister of Public Health  
ボンメック・ダーラーロイ  
Pommek Daralay, Dr

■法相 Minister of Justice  
カムアン・ブッパー  
Kham Ouane Boupha

■農林相 Minister of Agriculture and Forestry  
シェン・サバントーン  
Siene Saphangthong

■大統領府相 Minister to the President's Office  
スバン・サリティラート  
Souphanh Sritthirath  
(1998年7月15日就任)

■首相府相兼官房長官 Minister to the Prime Minister's Office and Chief of the Cabinet Office  
サイソンポン・ボムヴィハーン  
Saisomphone Phomvihane

■首相府相 Minister to the Prime Minister's Office

カムサイ・スパヌヴォン  
Khamsey Souphanouvong  
ブンティエム・ピッサマイ  
Bountiem Phissamai

スーリー・ナンタヴォン  
Souly Nanthavong

サイセンリー・テンブリアヴ  
Saysenglee Tengbliavue

ソンパワン・インタヴォン  
Somphavan Inthavong

■中央銀行総裁(閣僚) Minister, Governor of the State Bank  
スカン・マハラート  
Soukhanh Maharaj  
(1999年8月6日就任)

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)